

# 令和5年度第3回 学びあい育ちあい推進審議会定例会要点録

---

令和5年8月18日（金曜）

|      |               |       |
|------|---------------|-------|
| 出席委員 | 社会教育の関係者      |       |
|      | 委員            | 堀井義昭  |
|      | 委員            | 布施栄子  |
|      | 家庭教育関係代表      |       |
|      | 委員            | 細田雅美  |
|      | 学識経験者         |       |
|      | 会長            | 炭谷晃男  |
|      | 副会長           | 長島剛   |
|      | 公民館利用者代表      |       |
|      | 委員            | 西山規子  |
|      | 多摩市図書館協議会     |       |
|      | 委員            | 秋澤友香里 |
|      | 文化財保護審議会      |       |
|      | 委員            | 横倉敏郎  |
| 出席職員 | 教育部長          | 小野澤史  |
|      | 文化・生涯学習推進課長   | 垣内敬太  |
|      | 社会教育・文化財担当課長  | 齊藤義照  |
|      | 永山公民館長兼関戸公民館長 | 伊藤麻衣子 |
|      | 図書館長          | 横倉妙子  |
|      | 教育協働担当課長      | 野原敏正  |

欠席委員 相楽委員・倉品委員

---

(開会時刻：14時00分)

議事録署名委員：細田委員

議事次第・配布資料

〔報告事項〕

|   |                                  |        |
|---|----------------------------------|--------|
| 1 | 令和5年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第1回理事会について | 【資料 1】 |
| 2 | 公民館事業進捗状況について                    | 【資料 2】 |
| 3 | 公民館施設使用状況について                    | 【資料 3】 |
| 4 | 多摩市立永山公民館・関戸公民館の組織について           | 【資料 4】 |
| 5 | 多摩市立中央図書館開館後の利用状況等について           | 【資料 5】 |
| 6 | 令和4年度地域学校協働活動の報告について             | 【資料 6】 |

〔協議事項〕

|   |                              |        |
|---|------------------------------|--------|
| 1 | 第4次多摩市生涯学習推進計画の令和4年度内部評価について | 【資料 7】 |
| 2 | 令和3年度学育審提言書に基づく事業の評価について     | 【資料 8】 |

|       |   |   |
|-------|---|---|
| 会     | 長 | ただいまの出席委員は、8名である。定足数に達しているため令和5年度第3回多摩市学びあい育ちあい推進審議会定例会を開始する。会議録署名委員は細田委員にお願いする。    |
| 会     | 長 | まず、資料の確認を事務局よりお願いする。  |
| 事 務 局 |   | —（社会教育・文化財担当課長より資料確認）—  |
| 会     | 長 | 次第では都市社連協理事会からの報告であるが、このあとの教育協働担当課長の公務の都合により、地域学校協働活動の案件を繰り上げさせていただきたい。<br>—全員異議なし— |

〔報告事項〕

6 令和4年度地域学校協働活動の報告について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【資料 6】

|          |   |   |
|----------|---|---|
| 会        | 長 | 報告事項6「令和4年度地域学校協働活動の報告について」を事務局より説明をお願いしたい。   |
| 教育協働担当課長 |   | 令和4年度地域学校協働活動の報告について、資料6をご覧ください。地域教育力支援コーディネーターは、多摩市では1名おり年々活動は増加している。地域学校協働活動推進事業・教育連携支援事業は、各校に推進委員が1名おり地域と学校をつなぐかたちで活動している。具体的には、地域未来塾をはじめとした子どもたちの多様な学びの機会の実現に貢献している。地域未来塾の実施状況をみても延べ人数も順調に伸びてきており、今後も継続していきたい。会議・研修については、令和4年度に地域学校協働活動推進委員会と地域学校協働活動研修を2回行い、研修も充実してきている。 |
| 会        | 長 | コロナ禍の3年間であったが、数的には増加しており、活動を地道に続けてきて  |

|  |   |
|--|---|
|  | いることは素晴らしい。会議・研修については、1月から3月に集中しているので、年間を通して行われると良いと思う。今年度はそのように取り組んでもらいたい。 |
|--|---|

## 1 令和5年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第1回理事会について・・・【資料 1】

|                |   |
|----------------|---|
| 会 長 :          | 報告事項1「令和5年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第1回理事会について」を事務局より説明をお願いしたい。   |
| 社会教育・文化財担当課長 : | 報告事項1「令和5年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第1回理事会について」を報告する。資料1は、連絡協議会第1回理事会の次第となる。資料1の裏面は、ブロックごとの役員等の輪番表となり、多摩市の第3ブロックでのブロック幹事は令和6年の予定である。資料1の2枚目は、理事会の協議事項となり「令和5年度の都市社連協ブロック研修会の実施計画」が決定された。今年度の統一テーマは、「学びが広がり、人がつながり、みんなの願いでつくるまち」である。多摩市が所属する第3ブロックは、11月4日(土)午前に八王子市で開催される。会場は八王子市生涯学習センター(クリエイトホール)。幹事市である八王子市より、統一テーマに即した内容かつ「生涯学習、地域づくり」等を基本テーマとした講演を1時間程度で検討中との話があった。資料1の3枚目は、協議事項となり「令和5年度都市社連協交流大会・社会教育委員研修会実施要項」が決定された。12月9日(土)午後1時30分から調布市文化会館たづくりくすのきホールにおいて開催予定で、前半は各ブロック研修会の実施報告、後半は、青山学院大学名誉教授の鈴木氏を講師とした「調布市社会教育計画について」の研修会を実施する予定である。11月4日(土)の第3ブロック研修会と12月9日(土)の都市社連協交流大会・研修会は旅費の予算もあるので、委員の皆様には是非ご参加いただきたい。両研修会とも幹事市より詳細が届きしだい通知を送付するので、参加希望の方は事務局に連絡願いたい。 |
| 会 長 :          | 都市社連協は、総会と第3ブロック研修会、交流大会・社会教育委員研修会と年3回集まりがある。八王子市のブロック研修会の詳細が分かり次第情報共有する。   |

## 2 公民館事業進捗状況について・・・【資料 2】

## 3 公民館施設使用状況について・・・【資料 3】

|           |  |
|-----------|--|
| 会 長 :     | 報告事項2「公民館事業進捗状況について」、報告事項3「公民館施設使用状況について」を一括して事務局より説明をお願いしたい。  |
| 公 民 館 長 : | 資料2「公民館施設使用状況について」を説明する。資料2-1は、永山公民館の事業進捗状況である。ベルブゼみでは、健幸まちづくり推進室との共催事業で終活をテーマとした講座を7月17日に実施し132人の参加があった。保育室開放デーは、毎月第3月曜日にこれまで12回実施しており、大人15人子ども16人が参加している。当初参加者がゼロの日もあったが、夏に向けてプール開放を行い参加者が増えてきている。家庭教育学級では、連光寺小・鶴牧中学校に出向いて講座を行い、計283人の参加があった。9月には瓜生小での講座も予定しており、今年度は |

|           |   |
|-----------|---|
|           | <p>現在のところ5校から希望があるため、今後も講座等でアウトリーチ事業を行っていきたい。市民講座は、市民からの企画を進めている。永山フェスティバルは、9月23日・24日の2日間に決まり4年ぶりの通常開催として多くの出店者、出演者を募っている。サロンコンサート、TAMAシネマフォーラムについては、毎月定期的に講演会を行っている。</p> <p>次に、資料2-2「令和5年度関戸公民館事業進捗状況について」説明する。地域貢献講座では、8月11日(祝)に「10代だけが集まる空間『TALKING with US!』」を開催した。この講座は、10代の高校生が企画したものである。夏休み中ということで参加者は少なかったが、高校生が企画したものを公民館が支える事業は良かったと思っている。薬物乱用防止講座について、今年度も実施予定であり、多摩中と東愛宕中から希望がきている。保育室開放デーは、毎週第1・3水曜日に実施しており、これまで7回68人が参加している。市民講座では、5月19日に「山中さん家が元気な理由」と題した講座を開催し、高齢者に多く参加いただいた。地域イベント協力事業では、4月のせいせき桜まつりと7月のせいせき朝顔市で地域や庁内関係課と連携し実施した。演劇フェスティバル、マンスリーコンサート、What's JAZZは、実行委員会による事業で定期的に行っている。</p> |
| 委 員 :     | 市民文化活動支援事業でマンスリーコンサートやサロンコンサートは、入場料の設定はあるか。   |
| 公 民 館 長 : | 関戸公民館のマンスリーコンサートについては、実行委員会方式なので団体主催で行っており、収益はないがかかる費用については有料としている。永山公民館のサロンコンサートは、公民館主催の事業となるため無料となっている。   |
| 委 員 :     | 市民文化活動は、経済的に手軽に参加できるものであると良いと思う。  |
| 会 長 :     | 関戸公民館の地域貢献講座は、高校生が企画したということで面白い事業だと思う。この企画のきっかけは、公民館からの声がけなのか。高校生にこのような企画をやってもらうのは難しい課題もあるかと思うが、どのようなきっかけで実現したのか。   |
| 公 民 館 長 : | 文化・生涯学習推進課での事業で「わがまち学習講座」という地域課題を考える講座があり、平成23年から開催している。令和4年度に開催された講座では高校生の参加が多く、その講座をきっかけに高校生が集まる機会があり、地域の高校生ともっと触れ合いたいという高校生3人が今回企画をした。公民館としてもサポートしていきたいということで実現した。   |
| 会 長 :     | 高校生とつながりを持つことはとても大切だと思う。小・中学生は、教育委員会を通じてつながることもできるが、高校生になると都立、私立になるので地域としてもつながりは難しい。高校の学習にも、小・中学校と同様に探求の時間を支援することや公民館や図書館と提携して活用してもらう場としてつながりを検討してもらおうと良いかと思う。  |
| 委 員 :     | 関戸公民館の薬物乱用防止講座について、とてもタイムリーだと感じるが、実施が来年の3月頃になっている。早く実施できたら多くの効果も表れるのではないか。  |

|           |  |
|-----------|--|
| 公 民 館 長 : | 学校の希望の日程となり、この時期となる。   |
| 会 長 :     | このような今起きている問題は、早く知ってもらうことも大切かと思う。  |
| 副 会 長 :   | 市役所では、都立高校とのつながりは難しいものなのか。もっときっかけづくりができると思う。   |
| 公 民 館 長 : | 多摩市内には都立永山高校があるが、あまり連携はしていない。私立の多摩大学附属聖ヶ丘中学高等学校では、地域に根差した探求学習という活動をしており、公民館を若者に知らせたいという思いから公民館の周知活動をしている。  |
| 副 会 長 :   | 大学に探求の授業を手伝ってほしいという話もくる。誰かが働きかけないとつながっていかない。ベルブゼミについて、健幸まちづくり推進室と共催連携事業とあるが、他の福祉の部署と公民館との連携はあるのか。  |
| 公 民 館 長 : | そこが公民館としても、課題の一つであると認識している。  |
| 副 会 長 :   | 市役所でのいろいろな課題を公民館で講座等として行うと良いと思う。是非やってほしい。  |
| 公 民 館 長 : | 引き続き、資料3「永山公民館・関戸公民館施設別使用状況」を説明する。永山公民館5月の使用状況では、ベルブホールで1,908人の使用人数となり昨年に比べ約400人増加した。合計は6,075人となり昨年より600人増えている。関戸公民館5月は、ヴィータホールが1,874人で昨年比600人増、全体でも4,701人で1,600人増加となっている。昨年の5月はコロナの影響があった。永山公民館6月は、ベルブホールで2,056人、昨年比150人増だが視聴覚室が130人程減っており、合計では6,193人、昨年比400人程増で使用率は昨年とほぼ同じとなっている。関戸公民館6月は、ヴィータホール1,946人、合計4,911人となり昨年比1,320人増となっているが、第1・第2・第3学習室が令和4年度は工事で使用できなかったため使用率は変わっていない。永山公民館7月は、ベルブホール2,056人で前年比230人増、合計6,193人で昨年に比べ約400人増えている。関戸公民館7月分は、ヴィータホール2,329人、前年に比べ3,000人減、合計で5675人、前年比約2,000人減となっている。これは、イベントや講座の集客によるものと考えている。 |
| 委 員 :     | 保育室の使用がとても少ないと感じる。   |
| 公 民 館 長 : | 両館とも保育室は、定期的に開放デーを行っている。それ以外での利用申請はほとんどない。   |
| 委 員 :     | 「ぴーかぶー」を開催しているが、プールの時には沢山の利用者がある。保育室利用の認知が難しいが、チラシ作成などの工夫はしている。とてもいい施設なので今後も周知をしていく。   |
| 委 員 :     | ポスターを貼ったり、チラシを設置したりは見かけるが、多摩市のラインでの周知を使うと広く知らせることができると思う。学校からのお知らせもラインできているので、そういったものも利用してみると良いかと思う。   |
| 会 長 :     | 市でも「猛暑の時には涼しい公共施設等へ」という取り組みをしているかと思う。本来の目的とは違うかもしれないが、涼みにきたついでに図書館等に寄るなど猛暑をプラスにして利用促進してもらいたい。  |

#### 4 多摩市立永山公民館・関戸公民館の組織について・・・・・・・・・・【資料 4】

|           |  |
|-----------|--|
| 会 長 :     | 報告事項4「多摩市立永山公民館・関戸公民館の組織について」を事務局より説明をお願いしたい。  |
| 公 民 館 長 : | 8月7日の教育委員会定例会で議決されたので、あらためて説明させていただく。資料4「多摩市立永山公民館・関戸公民館の組織について」をご覧ください。時代や社会を取り巻く環境が変化する中で、これまで別組織として各地域に根差した社会教育施設として運営してきた永山公民館と関戸公民館の両館の組織を統一し、組織力を向上させ、多摩市の社会教育事業のさらなる充実を図り、公民館の代表的な機能である「つどう」「まなぶ」「つながる」を促し誰もが利用しやすい施設を目指していきたいと考えている。組織体制については、新体制として永山公民館、関戸公民館ともに施設の管理、運営の担当を1担当ずつ、事業担当は公民館として1担当とし、アウトリーチや連携事業の推進・強化を図っていく。今後の取り組みとしては、各公民館の運営においては、立地環境や地域性を活かし、それぞれの地域や市民との関係性を大切にしながら、地域の社会教育施設の拠点として様々な事業を展開していく。また、事業担当の職員配置を充実させ、様々な団体・機関と連携しながら、社会教育事業を展開したいと考えている。組織改正までのスケジュールは、8月7日に教育委員会定例会で公民館組織について議決し、9月に子ども教育常任委員会で報告、10月から11月にむけて市長部局との調整、12月には多摩市議会定例会で多摩市公民館条例改正を上程していく。その後、必要に応じて多摩市公民館処務規程等を改正していく。令和6年4月より公民館は新体制で始動していきたいと考えている。 |
| 会 長 :     | 永山公民館と関戸公民館の人事を一本化し、これまで各館に運営・事業担当がいたところを集約してあたるということで、4人だった担当が3人になったということか。   |
| 公 民 館 長 : | 担当数が4から3になる。そのため、係長が4人だったところが3人になる。担当者数が減るということではない。人事とともに予算も2本化していたものを1本化し、事業の取り組みを整理整頓していく。  |
| 会 長 :     | 公民館の事業も長い間続いているものもあるので、色々な意味での整理も必要かと思うが、人数が減っているから切り捨てるなどと市民に受け取られないように、きちんと事業の継続を考えていただければと思う。   |

#### 5 多摩市立中央図書館開館後の利用状況等について・・・・・・・・・・【資料 5】

|           |   |
|-----------|---|
| 会 長 :     | 報告事項5「多摩市立中央図書館開館後の利用状況等について」を事務局より説明をお願いしたい。   |
| 図 書 館 長 : | 資料5「多摩市立中央図書館開館後の利用状況等について」を説明する。中央図書館は、7月1日にオープンし1ヶ月が経過し、7月の利用状況を報告する。7月は、2日間休館があり、入館者数128,718人、貸出者数25,940人、貸出冊数61,293冊となった。入館者数は、開館初日7月1日、2日に約11,000人が来館し、その後 |

|                  |   |
|------------------|---|
|                  | <p>の土日祝日は約 5,000 人が来館、平日は約 3,000 人が来館している。貸出者数は、開館初日 7 月 1 日、2 日の貸出者数は約 1,200 人、当日の来館者数約 11,000 人に対し約 1 割であった。以降、概ね 1 日あたりの貸出者数は、1 日あたりの来館者数の 2～3 割程度となっており、資料の貸出や席の利用などの目的で来館される方が多いことがうかがえる。令和 4 年 7 月の旧本館の 1 日あたりの貸出者数 453 人に対し、中央図書館の 1 日あたりの平均の貸出者数は 894 人と約 2 倍であったが、セルフ貸出機を導入したことにより、待つことなくスムーズに貸出がされている。貸出冊数については、旧本館の令和 4 年 7 月の 1 日あたりの貸出冊数は約 1,000 冊であったが、中央図書館の 1 日あたりの貸出冊数の平均は約 2,000 冊と約 2 倍の増加となっている。新規利用登録者数については、7 月一か月で約 4,000 人あまりの新規登録があった。令和 4 年度の全館での新規登録者数が 5,861 人であることから、予想以上の登録が開館後短期間にあった。また初めて図書館に登録される方だけでなく、しばらく図書館を使っていなかった方も来館した傾向がみられた。続いて開館式典について、7 月 1 日（土）9 時 20 分～10 時に式典と落合中学校吹奏楽部の演奏を館内で行い、式典終了後に、希望者に対し館内内覧を行った。開館記念イベントについては、直前イベントとして開会前に「辻村深月さんトークイベント」を、開館後に②～⑤の講演会を図書館主催で実施した。各講演会の詳細や写真については、資料の 3 ページ (1) -1 をご覧いただきたい。企画展示としては、「歌川広重『東海道五十三次』」の展示を行い、3,362 人と多くの方にご入場いただき、これに合わせた講演も行っている。また、1 階にあるステッププラザという大階段でも本の展示を行った。市民、大学、多摩センター周辺企業との連携イベントとしては、募集したアイデアから参加型イベントとして①～⑬を、企画展示として⑭・⑮を行った。そのほか庁内各課との連携で、経済観光課やサンリオエンターテインメントと連携し「ハローキティにあえる街」の中でのイベントの実施や YouTube での紹介動画の公開など行った。図書館としても地域の活性化に貢献していきたいと考えている。開館 PR ポスター、パンフレット、木のしおり、開館記念グッズを配布。開館については、新聞等の紙媒体、テレビ等映像、インターネットなどさまざまなかたちで紹介していただいた。2 階ではおしゃべりしながら親子で本を選び、読み聞かせしながら過ごせる場所として取り上げられているものが多かった。</p> |
| <p>会 長 :</p>     | <p>オープン前に市民の方で長蛇の列ができており、中央図書館の開館を待ちに待った市民の皆さんの気持ちも伝わってきた。開館後の利用状況についても、入館者数、貸出者数も今までの倍増えているが、永山図書館や唐木田図書館などの地域図書館の利用状況はどうなっているのか。</p>  |
| <p>図 書 館 長 :</p> | <p>例えば、豊ヶ丘図書館は、本館がいったん閉館したため、利用者が豊ヶ丘図書館に流れ混雑した。中央図書館オープン後は元に戻ったが、豊ヶ丘図書館は元々利用が多い図書館なので利用者が激減するということではない。中央図書館のようにさまざまな活動場所がある図書館と近隣で落ち着いて使っていただく地域図書館とを利用者もわかっているように思う。その他の図書館も利用者が減るということは起きておらず、中央図書館と地域図書館の両方に来館していただいている。</p>  |

|           |   |
|-----------|---|
| 会 長 :     | 地域の図書館の役割はあると思う。永山図書館などの駅前図書館は影響がでたのではないかと心配したが、そのようなことはなかったのか。   |
| 図 書 館 長 : | 永山図書館は、利用者が減っていることはないが、見た感じには若い人が減ったような印象である。夏休み期間であったため中央図書館で勉強しようとする方もいたのではないと思う。   |
| 会 長 :     | 中央図書館は、学習室の利用も多かったのか。   |
| 図 書 館 長 : | 中央図書館には、予約の必要がないグループ研究室があるが、学生や子どもたちの使用が目立っていた。若い世代は、予約ではなく空いていれば使うという方が使いやすいようだ。   |
| 会 長 :     | 地域図書館も影響が出ていないということで、中央図書館により新たな層を掘り起こした効果がありとても良いことだと思う。   |
| 副 会 長 :   | 他の館と比べるとどうか。全国で何位になったかなどは調べるのか。   |
| 図 書 館 長 : | 統計としては、毎年出している。元々、多摩市の図書館は人口統計の中では予約・貸出数は全国区でも2位や3位である。   |
| 副 会 長 :   | ランキングが1位になっていくと、「住み替えたい」等まちの文化を感じる事が図書館から発出でき、とても良いことだと思う。ランキングが良い数字であれば公表していくと良い。  |
| 図 書 館 長 : | 多摩センターは、近隣市からも来ていただくことができる地域なので、まちの活性化にもつながっていくかと思う。  |
| 副 会 長 :   | 先ほど永山公民館、関戸公民館と一緒にやっていくという説明があったが、図書館で図書館らしくないイベントを行うと公民館でやっている独自イベントと似てしまうと感じる。その連携はどのようにやっていくのか。  |
| 図 書 館 長 : | 図書館は、もともと市内の各課連携で福祉分野や税などの本の企画展示をしている。公民館での講座や講演会がある時にも、図書館の本を展示することを実施している。図書館の特性を活かしたつながりで連携をしていきたい。  |
| 会 長 :     | 地域図書館もそうだが学校図書館ともつながると良い流れができると思う。それぞれの特性を活かした企画の持ち方等さまざまなバリエーションがある。   |
| 副 会 長 :   | 高校の図書館は、利用率が低い。図書館へ行く癖をつけてあげられるといいと思う。  |
| 図 書 館 長 : | 永山図書館だと、近くに都立永山高校がある。図書館では図書館ニュースを発行しているが、昨年度から中・高校生向けも発行した。これを市内の中学校だけではなく都立永山高校の全校生徒にも配布した。この図書館ニュースで、中央図書館などの図書館を知ってもらうとともに利用者登録用紙を刷り込んだところ数人の登録があった。こういった連携は、引き続きやっていきたい。 |



〔協議事項〕

1 第4次多摩市生涯学習推進計画の令和4年度内部評価について・・・・・・・・・・【資料 7】

|                     |  |
|---------------------|--|
| <p>会長：</p>          | <p>協議事項1「第4次多摩市生涯学習推進計画の令和4年度内部評価について」を事務局より説明をお願いしたい。</p>   |
| <p>文化・生涯学習推進課長：</p> | <p>協議事項1「第4次多摩市生涯学習推進計画の令和4年度内部評価について」を説明する。資料7-1「第4次多摩市生涯学習推進計画の進行管理について」、令和3年度からスタートし、令和4年度より前年度の事業実績について内部評価を行い、今年で評価年度の2年目になる。令和5年度は、2年に一度の外部評価も行う。次に、資料7-2「第4次多摩市生涯学習推進計画評価のプロセス」をご覧いただきたい。生涯学習推進計画の評価は、11項目ある推進項目の中を24の個別施策にカテゴライズし、個別施策に紐づく事業を単位とし、アウトプットと初期アウトカム、中間アウトカムを調査している。資料の裏面に体系図があるが、基本理念「学びあいがつむぐ健幸なまち」に基づいて、目指す方向として1~4の4つの方向性があり、1~11の推進項目が紐づいている。推進項目にそれぞれの個別施策を定義している。その関連事業として、各部署の取り組み事業がぶら下がっている。このような行動体系の中で、評価の整理の仕方としては、資料7-3をご覧いただきたい。推進項目単位で1ページとなっている。基本的に中心にしているのは各所管からの関連事業のアウトプット、初期アウトカム、事業実績である。下欄にある「推進項目1の事業実績の考察」は、所管課からの実績を基に事務局で考察したものである。指標の推移は、アウトプット、初期アウトカムを施策ごとに前年度と比較し、「増加」「維持」「減少」の個数をカウントし「増加ー減少」の個数で表している。この表示は昨年度にはしていなかったが、捉えづらいつのことから今年度は試みとしてこのような捉え方をしてみた。この点もご意見があればいただきたい。外部評価について、2年に一度の多摩市世論調査の数値をもとに外部の学識経験者の方による意見をいただき外部評価を行うもので、今年度実施していく。今後の予定は、今回8月の学びあい育ちあい推進審議会にて内部評価案の協議をいただき、10月に生涯学習推進本部会議にて内部評価の協議・決定、11月にこの場で内部評価の報告やいただいた意見等の返答を行う。その後12月に外部評価を進め、1月に生涯学習推進本部会議にて外部評価の協議・決定し、2月に学育審へその報告を行う。資料7-3はお読みいただき、8月31日までに事務局にご意見をいただきたい。続けて、資料7-4「令和4年度内部評価総評」を説明する。第4次生涯学習推進計画は、令和3年度からスタートし計画期間の2年が過ぎた。昨年度は、評価方法について試行錯誤の中での実施となり、さまざまな意見が寄せられた。今年度の評価は、昨年度に寄せられた意見を参考に調査票や書式の一部を見直し、よりわかりやすい評価とした。令和4年度の振り返りとしては、新型コロナウイルス感染症拡大が続いていたが、緊急事態宣言やまん延防止措置が発令されなかったことから、これまで中止していたイベントや事業が徐々に再開された。依然として新型コロナウイルスの影響を受けている事業もあるが、これまでの経験を活かし、人数の制限や時間の短縮、事業数を絞るなど工夫をすることで市民への情報発信や学習機会、学</p> |

|                      |   |
|----------------------|---|
|                      | <p>習の場の提供が継続された。一方、リアルでの催しやイベントが可能となったことから、これまではオンラインで実施していた事業の多くが会場開催に切り替えられた。その動きに伴い、動画配信が減少し、指標にしている参加者数も減少してしまう傾向もあった。コロナ禍で動画配信の活用が浸透してきたことにより、情報発信やイベントなどの場面で実施方法に選択肢が増えたことは、多くの情報を市民にわかりやすく伝えることやイベントへのアクセスが容易になるなどメリットもあった。一方で、リアルでの意思疎通や対話はより深いコミュニケーションが取れることやリアルでの学習環境では理解が深まるメリットがあることから、リアルとオンライン、それぞれを場面に応じて適切に使い分けることが今後の課題となっていくと思われる。令和4年度の大きな出来事としては、新たな生涯学習のための公共施設として「多摩市立市民活動・交流センター」が開設したことである。今後の、団体同士での交流が生まれ、さまざまな形に発展する可能性のある市民活動の場として大いに期待したいところである。指標による視点から、成果指標の増加がみられた事業は、個別施策「⑩多世代交流の場づくりの推進」における、市民活動や交流の場として開館した「多摩市立市民活動・交流センター」やコロナ禍で中止していたが再開できた「永山フェスティバル」などの事業がある。「⑦地域団体との連携」では、「地域ふれあいフォーラム TAMA」として実施してきた事業が「VITA ふれあいまつり」として新たな形で再開され、地域で活動する市民団体のネットワーク化の促進が図られた。「⑪ボランティアセンターの充実」では、「ボランティアセンター」のリニューアルやこれまで閉じていた施設の再開により、ボランティア団体の活動が増え、利用者の増加が見られた。一方、成果指標の減少が見られた事業としては、「⑮オンライン・通信教育での学習サポート」で自主防災組織の防災訓練が再開したことから「防災に関する DVD 等の無料貸出」が減少した。また、「②ライフスタイルの変化に対応した学習の情報提供」における「ライフウェルネス教材」では、読み聞かせのための教材であることから、依然として新型コロナウイルスの影響を受けて活用されなかった。共通する課題としては、生涯学習を取り巻く状況は改善されつつあり、「学びあいがつぐむ健幸なまち」に一步近づいた1年であった。一方、数年後には指標の伸びが鈍化していくことも予想されることから、今回の結果に満足せず、事業実施に当たっては、常に工夫を続け成果を向上させていくことが課題と考える。今後の評価に向けて、指標は数値で示されることから、明確に評価できるが、事業実績は、主観的な要素や質的な側面が含まれたため、客観性を持ちつつ、わかりやすく評価することが課題となる。今後は、学育審や生涯学習推進本部などの意見を踏まえ、この課題解決に取り組み、より実効性のある評価を目指すことが重要である。こうした取り組みによって、効果的な進行管理が実現され、市民の生涯学習活動への支援がさらに推進されると考えている。</p> |
| <p>会 長 :</p>         | <p>資料に目を通していただき、意見を事務局までお寄せいただきたい。<br/>中間アウトカムとしての世論調査はいつ行うのか。</p>  |
| <p>文化・生涯学習推進課長 :</p> | <p>秘書広報課で8月下旬から発送し、集計が10月以降となる。その結果をみて、12月に外部評価案を作成していく。</p>  |

|              |  |
|--------------|--|
| 委員：          | 資料7-4の【指標による視点から】で、個別施策「⑮オンライン・通信教育での学習サポート」での「防災に関するDVD等の無料貸出」は、自主防災組織の方向けの貸し出しなのか。個人でも借りることができるものなのか。また、ライフウェルネス教材とはどんなものなのか。読み聞かせの教材とのことだが、誰が誰にどう活用するものなのか。 |
| 文化・生涯学習推進課長： | 自主防災組織の貸出しについては確認する。ライフウェルネス教材は、多摩市健幸まちづくりの取組に関する重要な情報を紙芝居形式で解説できる紙芝居セットである。対面でのやり取りをするツールなので、まだ積極的に活用したい市民がいないのかと思う。表記の仕方については、初見でもわかるように工夫していきたい。            |
| 事務局：         | 資料は、事前にお配りしていたところだが、今の説明をきいて質問もでてくるかと思う。来週の8月23日（水）までにご質問があれば事務局にメールでお送りいただきたい。その回答を8月28日（月）までに行い、回答をご覧いただいたうえで、9月8日（金）までに最終的なご意見をいただきたい。                      |
| 文化・生涯学習推進課長： | 資料7-3については、13ページに「まとめ」があるので、このページを読み込んでいただき、ご意見・ご質問をいただきたい。  |

## 2 令和3年度学育審提言書に基づく事業の評価について・・・・・・・・・・【資料 8】

|       |  |
|-------|--|
| 会長：   | 協議事項2「令和3年度学育審提言書に基づく事業の評価について」を事務局より説明をお願いしたい。  |
| 事務局：  | 資料8「多摩市におけるこれからの社会教育施設のあり方について」－社会教育施設利用の活性化に関する提言－の取組結果をご覧いただきたい。こちらは、学びあい育ちあい推進審議会にて令和4年2月に提言した「多摩市におけるこれからの社会教育施設のあり方について」－社会教育施設利用の活性化に関する提言－の点検評価の検討資料として、取組み結果を事務局にて取りまとめたものである。各施設での取り組み結果や今後の展望について、各館長より説明する。<br><br>【1 アウトリーチ活動の充実について】  |
| 公民館長： | 公民館の取組結果は、資料8のとおりである。薬物乱用防止講座については、要望のあった聖ヶ丘中、東愛宕中、和田中の3校で実施した。当初、保護者や地域の方も生徒と一緒に学習できる機会としていたが、新型コロナウイルス感染症の状況を考慮し、令和4年度については生徒のみ対象となった。これ以外に、日野市との連携や家庭教育講座の中で父親対象救命講座を開催するなど連携を進めている。今後の展望として、令和5年度もコミュニティセンターとの連携、薬物乱用防止講座についてはアウトリーチ事業を実施する予定。次年度以降については、組織や事業を整理・統合する中で、アウトリーチ事業の充実をどのように図っていくか検討を進めたいと考えている。 |
| 図書館長： | 図書館は、この提言をしっかりと実現していくように取り組んできたところであ   |

る。若年層への図書館の利用や図書館以外の場所での図書館蔵書を読む機会を設ける、アウトリーチ活動、障がい者サービスの実施、多摩市在住の外国人向けのサービスを提言書で求められているところである。若年層へ向けには、中央図書館が開館し活動の場を設けた。こちらに記載しているとおり様々な場所へ出向き図書館の認知や来館のきっかけづくりを行った。公式 SNS での情報発信や多摩市立図書館ニュースを発行し、利用につながる努力をした。また、図書館以外での読書機会を作るため、今年度より新たに保育園や幼稚園への「セット貸出」を企画した。児童館への出張おはなし会を試行として実施、障がい者サービスへの取組み、日本語を母語としない方が利用できる資料などの提供を行った。提言でいただいた「多摩市在住の外国人向けのお話を関戸公民館で開催する企画を期待する」については、今後実現していくことで準備を進めていく。

社会教育・文化財担当課長：開館した「多摩ふるさと資料館」では、市内小中学校への文化財資料の貸出、資料館・古民家における小学校社会科見学の受入れ対応、小学校に出向いてのお米の脱穀体験指導と解説等を通じ、学校のカリキュラムや副読本と連携した郷土の文化・歴史学習の取組を実施した。また、一本杉公園に社会科見学に来るときには、ふるさと資料館から出向いて生活の様子や構造等を学芸員が解説した。

#### 【2 生活課題・地域課題の共有】

公民館長：提言では、アウトリーチ活動を進めていく過程で、コミュニティセンターや学校、PTA 等と定期的に情報交換や高齢者の情報格差の問題「スマートフォン入門講座」等の事業拡大、大学等と連携した講座の充実が求められていた。こうした中で、「公民館スマホ教室 入門・体験編」「スマホサロン」、東京都と共催で「シニアのためのスマホ相談会」を実施し、好評を博した。さらに子育て世代の支援として「子育て応援講座」「家族について考える講座」「保育室開放デーなどの幼児と保護者を対象とする事業」、「小学生向けの講座・体験事業」家庭教育に関する事業」など様々な側面から展開した。大学との連携では、現代社会を取り巻く変化に即応したテーマで、市内5大学と連携し「地球大学院」を実施した。今後も時機をとらえたテーマ設定により、社会や自身を取り巻く様々な生活課題や地域課題についてフレキシブルに対応しながら事業を展開していきたいと考えている。なお、地球大学院については、今後の進め方を含め目的や実施する際の大学のメリット、テーマ設定など一部ご意見もあることから、来年度以降は事業展開の再考が必要であると考えている。

図書館長：図書館として提言で求められたのは、各課との連携での展示や新たな課題に対し、必要な知識を得ることや課題解決に向けて学びあう機会の充実、中央図書館での様々な活用や高齢者のニーズに合わせたイベントの開催である。地域課題については、児童虐待や引きこもり、気候変動など喫緊の課題となっているテーマを取り上

げ情報提供した。また、テーマごとにSDGsマークをポスターに掲示したり、高齢を理由に図書館から遠のいている高齢者やその家族を対象とした図書館カフェを医療関係者や市内の大学と連携し実施した。今後の展望としては、引き続き各課と連携した企画展示、パスファイダー等の作成により、地域課題について市民が必要としている情報の収集、調査研究が効果的に行えるよう支援していく。高齢者を対象に興味がある分野の本を図書館で探し、感想を述べあう図書館カフェを令和5年度も実施していく。自己評価としては「A」とさせていただいた。

社会教育・文化財担当課長：

ふるさと資料館では、来館者に多摩市の歴史やニュータウン開発前・開発初期の生活を実感していただく展示・情報発信に取り組んだ。取り組み内容・今後の展望は、記載のとおりである。自己評価としては、「B」とさせていただいた。

### 【3 人材育成・交流促進】

公民館長：

公民館での交流促進については、永山フェスティバルやVITAふれあいまつり、地域のイベントに協力することにより、市民団体や施設間の連携を通して緩やかな交流が図られた。また、演劇フェスティバルは参加劇団がそれぞれ互いの上演に協力をし、昨年度から、中学校の主権者教育に劇団の壁を越えて協力するなど地域貢献も進めている。来年度は合同公演も計画しており、団体間の交流はより深まっていると考えている。一方提言で指摘のあった「学びの活動をコーディネートする中核となる人材の育成」については、どのような手法で人材を育成していくか検討の途上にある。今後の展望としては、団体や地域との交流促進については引き続き公民館が中心となって進めていきたい。一方、一部事業の実行委員会では、担い手の高齢化という課題が顕著になってきており、事業の存続や進め方、公民館の支援の在り様が今後の課題となっていることから、自己評価「C」とした。

図書館長：

提言では、障がい者サービスでのボランティアの方への育成、幅広い対象への読み聞かせへの期待を求められている。読み聞かせボランティアや音訳者や点訳者の技術向上のための研修や講座の実施や7月に開館した中央図書館に市民が自由に話し合える場やグループ学習ができる場として活動室やラーニングコモンズを整備した。外国語での読み聞かせを取り入れたおはなし会や市内小学校2年生を対象とした図書館訪問で手話での絵本の読み聞かせをするなど各館でプログラムを工夫し実践した。中央図書館開館に際して行うイベントアイデアを市民から広く募集し、令和5年度に市民と協働で実施できるように検討を進めた。今後の展望としては、読み聞かせや障がい者サービスを中心としたボランティアとの協働のほか、図書や図書館に関連したイベントなども市民と企画し多様な活動を共に行えるよう引き続き取り組んでいく。自己評価は「A」とした。

|   |  |
|---|--|
| <p>社会教育・文化財担当課長 :</p> <p>公民館長 :</p> <p>図書館長 :</p> <p>社会教育・文化財担当課長 :</p> | <p>ふるさと資料館では、多摩市文化振興財団の事業「メカイ作りワークショップ」開催にあたり、資料館の多目的室を会場として貸し出すとともに、財団の学芸員が多摩ふるさと資料館の展示室を解説する機会を作った。また、多摩市文化団体連合の加入団体との共催による文化庁補助事業「伝統文化親子教室」や東京都埋蔵文化財センターとの共催による講演会を開催するとともに、令和5年11月には都立桜ヶ丘公園との共催によるコンサートの開催等を予定している。今後の展望としては、関係団体・機関と更に連携し、人材育成・交流につながる取組を展開する。また、多摩市文化振興財団が養成している「市民学芸員」との連携を図り、文化財に関わる人材育成・交流促進につながる取組を検討していく。自己評価「B」とした。</p> <p>【4 社会教育行政のネットワーク化】</p> <p>「多摩市・日野市広域連携事業協議会」において、2市が連携して、ICTを活用した「多摩学びテラス」を以下の内容で実施した。令和4年度は多摩地域の市民が参加できる市民大学講座として「地球大学院」「ひの市民大学」にオンライン参加できる仕組みを組み込んだ。また、市民がICTに親しみながら暮らしを豊かにする機会醸成として「子どもプログラミング講座」を両市で開催した。さらに、多摩地域の社会的資源を活用した世代交流イベントとして「多摩の丘陵地と史跡を歩こう」を開催し、ワークショップなどを通じ、両市民が互いの生活圏を超え多摩地域の自然や歴史を知り、交流する機会醸成に繋げた。今後の展望としては、多摩島しょ広域連携活動助成金事業として令和3年度から3カ年の期間で実施することとしており本年度で本事業は終了することから、次年度以降も事業連携を続け、稲城市にも働きかけ3市で事業連携を進めることができないか検討を進めていく予定である。自己評価「A」とさせていただいた。</p> <p>提言書では、他の社会教育関係機関との連携、近隣の大学との連携、多摩市国際交流センターとの連携の3点を提言いただいた。このことについて、公民館やパルテノン多摩とのイベントでの連携やふるさと資料館等と連携している。また、高齢者を対象とした図書館カフェを実施するにあたっては、福祉や介護について学んでいる学生ボランティアに参加してもらうことにより、実際に高齢者を関わりをもつ機会となり学生にもメリットがあるイベントとすることができた。多摩市国際交流センターと連携し、国際交流センターが発行する情報紙に図書館のサービスや外国語の本や電子書籍についての情報を掲載し、日本語を母語としない方に対し図書館利用について紹介した。自己評価は、「A」とさせていただいた。</p> <p>ふるさと資料館では、図書館で取り組んでいる「多摩市デジタルアーカイブ」と連携し、多摩市の指定文化財や文化財施設・資料等を、いつでもどこでも、解説とともにご覧いただける環境を整備した。併せて東京都埋蔵文化財センターや多摩ふるさと資料館と併設の多摩市立市民活動・交流センターと連携を行っている。また、</p> |
|---|--|

多摩市文化振興財団の事業「メカイ作りワークショップ」開催にあたり、資料館の多目的室を会場として貸し出すとともに、財団の学芸員が資料館の展示室を解説する機会を作った。今後の展望としては、様々な立場の人が文化財保護の重要性を理解し、市民の輪を広げていくよう、多摩市文化振興財団や市民活動・交流センター、庁内関係課・関係機関との連携事業の充実を図っていく。多摩市文化振興財団が実施している市民学芸員との連携による取組についても検討していく。自己評価は、「B」とした。

#### 【5 DX（デジタルトランスフォーメーション）の活用】

公民館長：IT機器等の活用という視点では、前項で記載のとおり多摩島しょ広域連携活動助成金事業(たま学びテラス)において、オンライン配信による事業を展開した。また、コロナ禍での事業の工夫として、YouTubeでの音楽や演劇の配信なども行い、演フェスラジオについては現在も継続してラジオドラマを定期的に配信している。施設利用料金の電子決済については次年度からの実施に向け調整を進めている。今後の展望としては、多摩島しょ広域連携活動助成金事業で使用したICT機器について同事業終了後公民館に譲渡されることから、積極的な活用と活用拡大について検討を進めていく。自己評価は、「B」とさせていただく。

図書館長：提言では、ホームページでのレファレンス情報の提供、「多摩市電子図書館」、「多摩市デジタルアーカイブ」の利用促進、「紙媒体の図書」、「デジタルコンテンツ」、「実社会で体験」を組み合わせた深い学びを提案するとともに積極的な学校教育での活用促進を求められている。これに対し、図書館では、ホームページからレファレンスの受付ができるように令和5年度からの実施を目途に検討を進めた。「多摩市電子図書館・多摩市デジタルアーカイブ利用説明会」を図書館本館で毎月1回実施した。たましん地域文化財団主催「多摩の歴史講座」にて「デジタルアーカイブで資料を見る」をテーマとして講座を行い、多摩地域の歴史研究に多摩市デジタルアーカイブを活用してもらうよう普及に努めた。市主催「多摩市子ども被爆地派遣事業」では、小中学生を対象に派遣前の事前活動の中で、本やデータベースを利用しての能動的探究活動を行った。今後の展望としては、令和5年度中に図書館ホームページからレファレンスが受け付けできる環境を整えるとともに図書館で利用できるオンラインデータベースの充実、利用促進を図っていく。また引き続き「多摩市電子図書館」、「多摩市デジタルアーカイブ」の利用促進を図っていく。自己評価は、「A」とさせていただいた。

社会教育・文化財担当課長：図書館の取り組みである「多摩市デジタルアーカイブ」では、多摩市の歴史、魅力を発信するため、『多摩市史』、市指定有形文化財「調布玉川惣画図」等の貴重な資料、多摩の郷土写真や小中学校社会科副読本、『多摩市市制施行50周年記念誌』などを公開している。昭和55年から令和3年の41年間撮影を続けてきた記録映像

|                |  |
|----------------|--|
|                | がある。この映像が活用されていないため、今後後世に継承するため、令和5年度に映像資料のデジタル化と整理作業を実施していく。そして、いつでも、どこにいても、誰でも文化財や多摩市の歴史に触れられる機会を提供できるよう取組を進めていく。自己評価は「B」とした。  |
| 事務局 :          | 資料8をご覧いただき、質問があれば8月25日(金)まで事務局へお願いしたい。その質問の回答を8月末日までにする。質問事項の回答を確認いただいたうえで、9月末日までに各委員の評価を提出願いたい。様式は、別途メールで送付する。特にコメントがなくとも、各館の評価(A~D)は必ず記入いただきたい。提言書評価のスケジュールとしては、次回の第4回定例会で「各委員の評価」と事務局がまとめた「評価のまとめ(案)」の2つを提示する。その後、第5回定例会で委員の評価としての最終案を提示し、第6回定例会で評価を決定していく。 |
| 会長 :           | これまでは提言をだしたら終わりであったが、今回は提言書に基づいてどの程度進んでいるかを検証するものである。提言書をもう一度見ていただいて、ふるさと資料館、中央図書館が開館し、公民館も2館を一体化していこうという中で、それぞれの柱がどのように進んでいくのか委員の皆さんの意見や思いを書き込んでいただきたい。   |
| 会長 :           | 他に事務局から何か連絡事項はあるか。   |
| 社会教育・文化財担当課長 : | 第54回関東甲信越静社会教育研究大会栃木大会の開催チラシと要項を、机上に配付させていただいた。こちらは、事務局の取りまとめはないので、参加希望がある場合には各自で申し込み願いたい。なお、他県での大会となるので、交通費・日当の支給はなく、参加の場合には自己負担での対応となる。また、次回の11月17日の定例会は、会場が関戸公民館大会議室(ヴィータ・コミュニ8階)となる。関戸公民館は駐車場サービスがないので、公共交通機関でお越しいただきたい。                                   |
| 会長 :           | 以上で、本日の予定は全て終了した。次回は、11月17日金曜日14時から、会場は関戸公民館の大会議室で行う。  |

(2時間25分)

(閉会時刻16時25分)

会議規則第10条第4項によりここに署名する。

令和 年 月 日

会長

委員